

山梨大学 医学部  
先端医学講座報告書  
2003～2008



UNIVERSITY  
OF  
YAMANASHI

# 目次

目次	1
山梨大学医学部「先端医学講座」開催5周年を祝して 山梨大学医学部長 前田 秀一郎	2
留学生30万人計画ー先端医学講座ー 山梨大学理事 塚原 重雄	3
医学部留学生委員会の活動について 山梨大学医学部留学生委員会 委員長 浜田 良機(整形外科)	4
医学部先端医学講座開設の思い出 解剖分子組織学教室 大野 伸一(前医学部留学生委員会委員長)	5
期待される大学間交流 生理学講座第1教室 有田 順	6
山梨大学部医学部先端医学講座の将来 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 増山 敬祐	6
「先端医学講座」と「病理診断業務支援プロジェクト」を振り返って 人体病理学講座 加藤 良平	7
私と先端医学講座 生理学講座第2教室 秦 嶺	8
先端医学講座と国際交流 分子病理学講座 範 江林	8
日本山梨大学医学部と中国内蒙古医学院の協定校の締結五周年についての感想文 北京大学医学部社会医学・健康教育系教授 王 培玉	9
「先端医学講座」の実施経緯 国際交流担当 山本 本や	9
内蒙古医学院(協定校)との交流状況	10
中国医科大学(協定校)との交流状況	12
第1回 山梨大学医学部先端医学講座	13
第2回 山梨大学医学部先端医学講座	17
第3回 山梨大学医学部先端医学講座	21
第4回 山梨大学医学部先端医学講座	25
第5回 山梨大学医学部先端医学講座	29
第6回 山梨大学医学部先端医学講座	33
第5回 山梨大学医学部先端医学講座アンケート	37
第6回 山梨大学医学部先端医学講座アンケート	38

## 山梨大学医学部「先端医学講座」開催5周年を祝して

山梨大学医学部長 前田 秀一郎

本学医学部での先端的医学研究や最新医療技術を交流協定校に紹介し、協定校から優れた留学生を受入れることを目的とする「先端医学講座」が、2003年9月に内蒙古医学院と中国医科大学で初めて開催されてから2008年までに毎年1回、計6回実施されました。

この間、本学から講師として派遣された先生方は、大野伸一教授、加藤良平教授、王倍玉講師（第1回）、有田 順教授、武田正之教授、王倍玉講師（第2回）、中尾篤人教授、増山敬祐教授（第3回）、加藤良平教授、浜田良機教授（第4回）、佐藤 悠教授、秦嶺助教、加藤良平教授（第5回）、北村正敬教授、浜田良機教授、範江林教授（第6回）のべ16名で、この他、2008年には、看護学科より高田谷久美子教授と山崎洋子教授が、今後の学術交流に関する協議のため内蒙古医学院を訪問されました。また、2004年には内蒙古医学院で久保田健夫教授が、2006年には、中国医科大学で大野伸一教授が、特別講義を担当され、2004年には、薬剤部の丹沢 泉主任が、「漢方薬研修」のため、内蒙古医学院を訪問されました。さらに、第4回と第5回の開講時には、加藤良平教授と弓納持勉主任検査技師が病理診断業務支援プロジェクトを内蒙古医学院で開講され、2008年には、内蒙古医学院の師永紅教授が3ヶ月間本学を来訪されて、本学における病理診断業務を体験されました。このような交流の様子は、先生方が書かれた文書に記載されていますのでご覧下さい。なお、これらの実施に際し、本学より北京大学教授に昇任された王倍玉先生には、常にご支援を戴き、また、本学国際交流担当の山本本や事務員の協力により、事業が円滑に進められたことを、特記し感謝致します。

このような交流事業の結果、医学部では現在までに中国医科大学から37名の留学生（内、16名は国費留学生、9名は1年間の短期留学生）と10名の研究者を受入れ、また、大野伸一教授が担当される「短期（約1週間）留学医学専門特別講義及び実習」受講者として、2003年に解剖学教授の呂永利教授と3名の学部学生が、2004年には、3名の学部学生が来学されました。特に、生理学講座第2教室（主任、佐藤 悠教授）の国費留学生、秦嶺氏は、学位取得後、アメリカ合衆国に留学され、現在、同教室の准教授に就任しておられます。一方、内蒙古医学院からは、2002年より毎年「内蒙古医学院研修者」として、約3ヶ月間、臨床系の講座で研修を希望される医師を受入れており、これまでに外科学講座第1教室（主任、藤井秀樹教授）、神経内科学講座（主任、塩澤全司前教授）、内科学講座第2教室（主任、久木山清貴教授）、精神神経科医学・臨床倫理学講座（主任、本橋伸高教授）、眼科学講座（主任、飯島裕幸教授）、内科学講座第1教室（主任、榎本信幸教授）、脳神経外科学講座（主任、木内博之教授）、産婦人科学講座（主任、星 和彦教授）、麻酔科学講座（主任、松川 隆教授）、小児科学講座（主任、中澤眞平教授）、放射線医学講座（主任、荒木 力教授）、外科学講座第2教室（主任、松本雅彦教授）、整形外科学講座（主任、浜田良機教授）、皮膚科学講座（主任、鳥田眞路教授）、耳鼻咽喉科学講座（主任、増山敬祐教授）、泌尿器科学講座（主任、武田正之教授）、内科学講座第3教室（主任、小林哲郎教授）、血液・腫瘍内科学講座（主任、小松則夫教授）等種々の講座で、のべ41名の方が研修されました。また、現在までに5名の留学生（内、2名は国費留学生、3名は短期留学生）を受入れています。さらに、内蒙古医学院研究者招聘事業として、約1週間の日程で、2005年には、蘇秀欄教授と常虹教授に、2006年には、呉岩教授と王晓娟教授にお出で戴き、漢方医学診療技術等を指導して戴きました。

「先端医学講座」を核とする、このような交流実績を、今後益々発展させ、内蒙古医学院、中国医科大学ならびに本学における医学教育、研究の発展に寄与することが、私共の大切な務めであると思慮します。

## 留学生30万人計画 -先端医学講座-

山梨大学理事 塚原 重雄

一昨年10年ぶりに、中国の最南端の海南島を訪れる機会があり、そこでかつて小生の元に留学してきていた、二人の中国人眼科医師と再会した。彼らはそれぞれ日本滞在中、すばらしい仕事をし、帰国後、眼科病院の部長、教授に昇進していたが、話をしているうちに驚いたのは日本で生まれたそれぞれの子供が高校生になり、オーストラリアに留学させていることを知ったからである。海南の道路、空港、ホテル、施設の発展振りにも驚かされたが、それ以上に驚かされたのは、海南の多くの中国人家庭の高校生がオーストラリアへ留学しているという事実を知ったからである。このまま行けば、日本は教育の面でも中国の後塵を拝することになると直感した。

教育を国の発展にとって最重要課題としてアジアの国々が、それぞれ独自の構想で取り組みつつある。中国では世界中に孔子学園を100校開校し、日本でも5校設立され、留学生の受入国に変貌しようとしている。シンガポールは既に国を挙げて、経済ハブ、貿易ハブ、空港ハブを目標に、アジアの中心となるべく、これらを国策として投資してきたが、更に、近年になって、英語が公用語であることもあって、アジアの教育ハブを目指している。既にマサチューセッツ工科大学、ペンシルバニア大学、バージニア工科大学等を誘致し、教育を産業とみなし、留学するならシンガポールへというキャンペーンを張っている。インドはご存知のように米国のMITに匹敵するIIT(インド技術工科大学)を核にして、優秀なIT人材を数多く輩出し、その卒業生が全世界で活躍している。実際にインドのシリコンバレーといわれる、バンガロールを訪問してみて、町並みが清潔で、他のインドの都市とは較べられない別天地であった。10億人中の1%が最優秀な、指導的な人材だとすると、1000万人もいるわけで、未来のインドを想像しただけでも恐ろしい国になる。韓国は政府が大学の授業は最低30%は英語であることを義務づけていて、韓国への留学生も急増している。オーストラリアは留学生政策を観光事業と同様に国の収入源の一つとみなしシンガポールと同様に教育を輸出産業の一つとみなして、留学生100万人計画を推し進め、東南アジアからの優秀な留学生を一手に抱え込もうとしている。このように多くの国々が海外からの留学生を集めることに躍起となっているが、留学生は全世界で170万人いて、2兆2000億ドルの市場とみなされている。

翻って、日本の実情を眺めてみると、中曽根首相が主唱した留学生10万人計画は20年でやっと達成されたが、残念ながら、アジアの最優秀の若者が日本留学を目指しているとは言いがたい状況である。少子化で益々大学入学者が減る中で、日本社会の活性化を促すにはアジアの国々から優秀な若者を受け入れる外ない。何とか日本がアジアの留学生を吸収できる、アジアの若者から選択される国になって欲しいものである。それには、日本の国そのものがアジア諸国の若者にとって魅力ある国にならなければならないし、日本全体の大学の質の向上が必須で、高等教育への一層の財政的支援が待たれる。日本への留学生にとってそれが、自身のキャリアアップにつながり、自国に戻った際、あるいは日本にとどまっても、良い就職先が得られるようになってはならない。日本政府の留学生30万人計画はいささか手遅れな感をいなめないが、その中で、山梨大学が先端医学講座を充実させ魅力あるものにしてゆくことは大変望ましいことである。

## 医学部留学生委員会の活動について

山梨大学医学部留学生委員会 委員長 浜田 良機  
(整形外科)

2005年4月、大野教授の後任として留学生委員会の委員長をおおせつかりました。委員長になっての最初の仕事は、山梨医科大学とパキスタンのフォンデション大学の交流協定の締結と具体的なプログラムの構築でありました。この交流協定の締結については、1987年から5年間、山梨大学医学部(当時山梨医科大学)整形外科教室へ留学、大学院を卒業して医学博士を授与されたナジャムシディキ氏の尽力によるものであります。2005年4月25日から5月1日まで、山本本や専門職員とともにイスラマバードを訪問、山梨大学医学部とフォンデション大学の交流協定を締結、具体的には留学生の受け入れと先端医学講座を開設することになりました。パキスタンからは分子病理学講座にアハメドビラルワーカー氏が現在大学院生として研究を行なっております。なお先端医学講座は、その後のパキスタンの政治情勢から、締結のため訪問したときに、私が行なって以後は中断され、留学生の派遣事業も困難な状態であります。一日も早いパキスタンの政治不安の解決によって、再開されることを期待しています。

2007年6月には、先端医学講座の開講のため、加藤良平教授、山本本や専門職員、弓納持勉主任臨床検査技師の4名で、中国医科大学、内蒙古医学院を訪問しました。両大学の留学生担当部局の責任者の才教授(中国医科大学)、牛教授(内蒙古医学院)のお二人とも山梨大学医学部との国際交流の継続を強く希望されていました。その成果のあらわれとして、中国医科大学出身の泰嶺先生が生理学第二教室の准教授に、また分子情報伝達学教室の姚建先生が2003年より准教授として山梨大学の基礎研究の発展に貢献されています。また姚建先生は留学生委員会の委員として積極的に中国からの留学生受け入れに貢献されています。私は、その後二度にわたって内蒙古医学院を訪問、さらに2007年には内蒙古医学院の畢力夫学長以下9名の教官の表敬訪問をうけ、病院施設の見学など、学問以外にも、さまざまな情報交換が行なわれています。

現在、山梨大学医学部では、新臨床研修制度の開始以来、臨床の各教室への入局者数の激減で、山梨大学医学部附属病院の診療、研究活動ならびに地域医療に対する重大な打撃となっています。その結果としての大学院への進学希望者の減少は、今後は基礎研究の進歩にも重大な打撃をあたえることになりかねません。入試における地域枠の設定や推薦枠の拡大は、将来的には山梨大学医学部附属病院での研修を希望する医師の増加が期待できますが、これらの人々が基礎的研究に興味をもって大学院へ進学するか否かは、まったく予断をゆるさない状況と思います。このような状況に対して、海外からの優秀な留学生の受け入れは、山梨大学医学部の基礎研究の発展に欠かせない重要な対策のひとつと思われます。現在の留学生のほとんどが中国医科大学、内蒙古医学院からの方々ですが、今後はこれらの現在交流協定を締結している大学に加えて、中国以外の国々からの留学生の受け入れに向けて、積極的な活動を行なうことが山梨大学医学部の発展に寄与するものと確信しております。

# 医学部先端医学講座開設の思い出

解剖分子組織学教室 大野 伸一  
(前医学部留学生委員会委員長)

去る平成20年6月には、中国医科大学(瀋陽)と内蒙古医学院(フフホト)において、第6回山梨大学医学部先端医学講座が、分子病理学教室範江林教授と分子情報伝達学教室北村正敬教授により、それぞれ「生活習慣病とその病態機序」および「遺伝子工学バイオセンサー」のタイトルで行なわれた。私が、平成15年9月に人体病理学講座の加藤良平教授と第1回目の医学部先端医学講座をはじめから、すでに5年余りが経過したのだと思うと、感慨深いものがある。ここでは当時の開講するに至った経緯について述べてみたい。

私は、平成4年5月に旧山梨医科大学(現山梨大学医学部)に着任して、翌年には留学生委員会委員に就任しました。当時は、すでに平成16年9月に御退官された統合後山梨大学初代学長吉田洋二先生が、委員長を努めておられました。毎年、秋の外国人留学生等研修旅行には、付添い教官として二人で参加したことが思い出されます。その後、上野精(旧山梨医科大学)副学長が委員長を努められておりましたが、平成14年には、私が医学部留学生委員会の委員長を引き継ぐことになりました。当時の旧山梨医科大学は、中国医科大学および内蒙古医学院と学術交流協定を結んでましたが、教官や学生の実質的な交換派遣事業等は行なわれていませんでした。そこで、新たに就任された吉田洋二山梨大学長(旧山梨医科大学長)から、私が両校を訪問して、「どのような交換派遣事業が展開できるかを調査してくるよう」との依頼を受けました。早速に、医学部留学生課の山本本や殿と両校を視察した結果、山梨大学の先端的医学研究を両校に紹介する講座開設と中学医科大学日本語クラスの優秀な医学生に医学専門特別講義と実習をすることになりました。この新たにスタートした医学部先端医学講座は、「特色ある海外学術交流を目指して、先端的医学研究や最新医療技術情報を交流協定校に紹介する」海外交流プロジェクトですが、その後の文部科学省の大学評価では、『非常にユニークな取り組みである』と高く評価されました。まず、第1回目は解剖組織学分野と病理学分野から開講されましたが、その後は両交流協定校の要請に応じて、他の基礎医学分野や臨床医学分野での講演が、今日まで継続されてきました。

以上のように本学と学術交流実績のある中国医科大学と内蒙古医学院は、現在でも大学規模の拡大と新大学病院の開設など、発展が大いに期待されております。この医学部先端医学講座による山梨大学医学部の研究・教育・医療の協力態勢が、両校の益々の医学研究と臨床医学の進歩に貢献することを祈っております。

平成20年11月末日

## 期待される大学間交流

生理学講座第1教室 有田 順

1996年に旧山梨医科大学の吉田洋二学長の発案によって締結された日中大学交流協定に基づき、2003年、山梨大学と中国の中国医科大学および内蒙古医学院の間で先端医学講座が始まって以来、毎年山梨大学医学部の教員が両校で講義を行い、今年が6回目を迎えることになりました。また、山梨から中国だけではなく、逆に中国から山梨大学へも多くの学生や臨床医師が訪れ、医学教育および臨床研修を受けました。まさに、双方向の国際大学交流が山梨大学医学部と中国の大学の間で実現しつつあるのを見て、喜びとともに、日中双方の大学間交流関係の多くの教員および事務の方々の、これまでのご尽力が如何に多大なものであったかを思わざるをえません。私自身は2004年に両校を訪問し、学生、教員、事務の方々の熱烈歓迎を受けたのを昨日のように思い出されます。特に、教員の方々の山梨大学への大きな期待、学生の講義への真摯な態度はカルチャーショックに近い、強烈な印象を私に残して行きました。確かに、医学教育の内容や臨床医学のレベルでは日本が優位であるにも関わらず、教育における教員と学生との緊張度に関しては私自身、敗北感に似たものを当時感じました。現在の日本の医学部にそれに匹敵するものを見つけることができるであろうか。その思いから4年、中国の国はさらに大きく発展し、12億の人口のエネルギーが世界経済の原動力へと飛躍し、同時に盤石な政治体制を核に安定社会を迎えてくるのを見ると、中国医学への日本の貢献というこれまでの考え方から脱し、対等な立場での相互交流といったものへ大学間交流が発展すべき時が来ているのではと思います。中国での思い出を胸に、今後の中国との大学間交流に大きく期待します。

## 山梨大学部医学部先端医学講座の将来

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 増山 敬祐

2003年からはじまった内蒙古医学院、中国医科大学での先端医学講座はすでに6回目を迎えました。私は、2005年に第3回の同講座の講師として中国へはじめて行って参りました。その時の中国医科大学での学生達の熱い眼差しはいまでも脳裏に焼き付いています。また、内蒙古医学院でも大学関係者の方々から熱烈な歓迎を受けた事がとても印象に残っています。内蒙古医学院では主に研究者と大学院生を対象とした講義でしたが、現代中国が持っている若いエネルギーみたいなものを強く感じ、逆に彼らからパワーをいただきました。国の勢いの差みたいなものがあるのかもしれませんが、経済的にも満ち足りて平和ほけしてしまった今の日本が失ったものを彼らは確実に持っているような気がいたします。この講座を行い私の方がさらなる勇気をいただいたことに感謝しています。この講座は何よりも山梨大学部医学部の貴重な財産でありますし、末永く継続させることが将来山梨大学部医学部の発展に繋がるのではないかと考えています。

ところで、先端医学講座での成果は、少しずつではありますが着実にでていくようです。山梨大学医学部の基礎の講座において、すでに准教授として2名の中国の先生が活躍されています。彼らの存在は次世代の山梨大学部医学部と中国の先生方との交流を促進し、さらに中国の多くの研究者が山梨大学部医学部で研究される環境ができることになれば誠に喜ばしい事であります。今後は臨床の教室への留学も今以上に活性化し、検査・手術の技術習得または臨床研究における共同研究の推進など、両者の交流関係がさらに深まることを期待いたします。将来的には、中国と日本の伝統医学と最先端医療を融合したオリジナルな講座や研究の開発なども含め、幅広い見地から両国の将来の発展を目指すことができれば先端医学講座の意義も大きいものと考えています。少しでも力になれるように精進致します。

## 「先端医学講座」と「病理診断業務支援プロジェクト」を振り返って

人体病理学講座 加藤 良平

日本と中国の大学との間では、国際交流の名の下にしばしば交流協定が結ばれている。しかし、実際には大学間での交流活動は行われず、その姉妹校関係はえてして形だけの形骸化したものになることが多いように思える。本学では2003年に始まった「先端医学講座」を中心にいくつかの交流事業が立ち上がり、本学と中国の姉妹校との間で、実際的な活動(大学間交流はもとより研究活動、学生間交流、臨床研修など)が活発に行われていることは特筆に値するだろうと思われる。

小生は、2003年に実施された第1回「先端医学講座」の派遣講師として、大野伸一教授(解剖学講座分子組織学)、王倍玉講師(現北京大学教授)、山本本や氏(医学部交流担当)とともに中国医科大学、内蒙古医学院を訪問した。その時に訪問した大学での先端医学講座の講義には、学部学生や研究者が多数出席していただき、本学の医学教育や研究活動をアピールするとともに、中国における学生や研究者の意識レベルの高さを実感できた。さらに、訪問した両大学からは身に余る歓待を受け、感激したことを記憶している。

その後、内蒙古医学院では新病院が建設され、2006年には「病理診断センター」が設立されることになった。内蒙古医学院のビー学長からの依頼もあり、病理診断学の分野での支援と交流を目的として、「内蒙古医学院の病理診断業務支援プロジェクト(以下支援プロジェクト)」を立ち上げ、2006年と2007年に再び内蒙古医学院を訪問した。その支援プロジェクトで訪れた際には、本学附属病院病理部の弓納持副部長も同行し、内蒙古医学院附属病院病理部の視察と病理診断とくに細胞診断に関する講義を行なった。なお、この支援プロジェクトでは、第4回(2006年)と第5回(2007年)の「先端医学講座」も同時に兼ねて行なってきた。さらに、この支援プロジェクトの一環として、2008年の3月～5月まで、内蒙古医学院病理診断センター長(病理学教室)の師永紅教授が、本学に派遣され、本学附属病院病理部での業務研修と病理学講座での研究交流をするに至ったことは、本プロジェクトを企画した小生にとってもとても喜ばしいこととなった。

文化や価値観、歴史観の異なる日本と中国の間で、実際的な大学間交流を行なうことは決して簡単ではないだろう。しかし、お互いに理解を深める努力と寛容の精神をもち、良好な相互関係を築くことは決して不可能ではない。また、その交流事業は一方的なものではなく、両大学が利益を得なければ継続する意味がない。ここで過去を振り返り、反省しつつ将来の交流事業をより良いものにできればと願う次第である。

現在まで、国際交流事業の実際的な運営や実施には、多くの方が献身的に努力されてきたことに感謝するとともに敬意を表したいと思う。また、私自身も微力であるが、これからの健全なる交流事業の発展のためにお手伝いできれば幸いと考える次第です。



## 私と先端医学講座

生理学講座第2教室 秦 嶺

去年の夏には、山梨大学と中国医科大学の先端医学講座に出席する機会をいただいた。中国医科大学卒業生と山梨大学教員の二重身分を持つ私にとって、特別な体験ができた。日本語クラスの後輩と一緒に佐藤教授の講義を聞きながら、15年ぐらい前、自分の学生時代の姿を思い出した。当時日本国際協力機構(JICA)の支援項目として、年に2、3回日本の医学専門家は中国医科大学を交流訪問していた。それに恵んで、日本語クラスの学生たちは日本からの先生の講義をたまたま聞くことができた。先生たちの素晴らしい講義を聞いて、日本の科学進歩を実感した。その時から、私は卒業後日本に留学することに決心した。この夢を抱きながら、一步一步着実に大学生活を送った。五年後の2000年に日本へ留学する機会が殺到した。しかし、日本に到着するのは夢の開始しかない、夢の本体は日本の先端技術と優れた研究環境を借りて、科学・学問のドアを開くことである。

このような先端講座に激励された人は私だけではなくて、私の同級生(77期日本語クラス、48人)の三分の二は日本に留学した経験を持っている。彼らは現在中国、日本またアメリカに臨床や基礎研究など色々な分野で活躍している。これこそ、先端講座の大きな成果であろう。現在真剣に講義を聞いている後輩の姿を見ると、この先端講座は更なる成果を果たせることを強く感じた。

## 先端医学講座と国際交流

分子病理学講座 範 江林

平成20年6月に瀋陽にある中国医科大学を訪問し、医学部日本語クラスの4年次生に「生活習慣病とその病理機序」というテーマで講義を行いました。海外で本学の「先端医学講座」の講義担当は初めてのことでしたし、また、中国出身の私にとっては母国で日本語により講義することも得難い経験でした。講義時には、非常に緊張感がありましたが、学生の熱心さに圧倒され、2時間の講義はあっという間に終了した印象を受けました。また、講義中に寝ていた学生が一人も居ませんでした。さらに驚いたことに、日本語クラスには二人の日本人学生も在籍していました。講義後、彼らから話を聞いてみますと、彼らは中国医科大学で医学の道を志しているそうです。中国医科大学は実は私の母校であり、久しぶりの母校訪問で、中国の日進月歩の変貌には驚くばかりでした。

私は昭和62年に留学のために来日しました。当時の日本には外国人留学生の数も少なく、来日した留学生のほとんどが文部省奨学金あるいは外国政府の経済援助を受けていました。しかし、現在の留学生の多くは、私費留学であり、その数が年々増加してきており、在日の外国人留学生総数は11万人を超えているそうです。来日してからの私自身の22年を振り返ってみますと、日本の大学で提唱されてきた「国際交流-国際化」という言葉の意味合いは段々変遷しつつあるような気がします。例えば、以前はアジア途上国から留学生が日本で「勉強して、帰国する」という一方的な交流が一般的でしたが、現在はむしろ優秀な留学生人材を生かして日本に貢献してもらおうという考え方が到来しているように思われます。世界経済がグローバル化されつつあるなかで、少子高齢化社会を迎えるわが国においては、外国人留学生を積極的に受け入れることは、わが国の経済発展にも寄与することが十分に期待されます。また、医学分野における医師不足や基礎研究者の激減などの現状を打開するにも、留学生の受け入れが重要な手段の一つとしても意義があると考えます。2003年から本学で実施されてきた「先端医学講座」は今後の国際交流推進の大きな原動力になると確信しています。私は今まで、中国や、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、フランス、ハンガリー、パキスタンからの外国人留学生あるいは外国人研究者を受け入れてきました。今後とも、「先端医学講座」を通して、大学の発展や国際交流にもっと自分の役割を果たしていきたいと思えます。

## 日本山梨大学医学部と中国内蒙古医学院の協定校の締結五周年についての感想文

北京大学医学部社会医学・健康教育系教授 王 培玉

日本山梨大学医学部と中国内蒙古医学院の協定校の締結はもう5周年経ちました。この5年間、さまざまな交流を行い、すばらしい交流成果を挙げました。

この5年間、山梨大学の先生達が毎年夏、内蒙古医学院に訪れ、『先端医学講座』を行い、最新の研究成果や先端知識を講義します。この講義は、内蒙古医学院の研究者や学生の間、高い評価を受け、内蒙古医学院の毎年の学術交流の一環として、定着されました。

また、内蒙古医学院側が毎年二回に分け、若い臨床の医者達も山梨大学医学部に派遣し、今まで50人ほど数多な医者達が山梨大学医学部で3ヶ月の研修生活を送りました。その研修によって、日本の先進な医学理念や新しい医療方法などさまざまな面で勉強になって、現在内蒙古医学付属病院の教授まで成長した医者が多数いますので、「山梨大学医学部は内蒙古医学院の教授養成学校です」という冗談な言い方もあるくらい、研修の成果をあげました。

そのほか、短期留学生の派遣、内蒙古医学院の院長の表敬訪問などの交流活動もあり、両校の交流はいろいろの面で行いました。

内蒙古は私の生まれた故郷です。そして、山梨大学医学部は私が今まで最も長く勉強・研究する所で、私の第二故郷です。この二つの故郷の大学が盛んに交流を行うことは私にとって最高の喜びです。両校の交流は大きく言えば、中日の交流です。中日の友好交流に貢献できることは私の最大の願いです。今、私の仕事は北京大学医学部です。地理的に山梨大学医学部と内蒙古医学院の間にあります。今後、私は両校の交流がますます発展して行くことに力になりたいと思います。

平成20年12月22日

## 「先端医学講座」の実施経緯

国際交流担当 山本 本や

山梨大学医学部の「先端医学講座」は、特色ある海外学術交流を目指して、医学部の「先端的医学研究や最新医療技術を交流協定校に広くアピールする」ことを目標として初められた海外交流プロジェクトの一つです。

「先端医学講座」の始まりは2001年4月、(旧)山梨医科大学の吉田洋二学長が、学術交流協定更新のため中国医科大学を訪問した際に、金魁和校長より「学術交流協定の更新により、両大学間の友好協力と学術交流が新しい段階に入ることを信じます」、また吉田洋二学長より「今後さらに大学間の交流を深め、より大きな成果を挙げたいと考えております」と言を交わし、両大学の新しい事業の開設を具体化することで合意したことによります。この合意をうけて、2002年3月に中国医科大学を訪問(山梨医科大学 大野伸一教授、王培玉講師、山本本や専門職員)、具体的な交流事業プログラムとして、「先端医学講座」を2003年度から実施することになりました。また、内蒙古医学院と2002年7月2日に学術交流協定を締結し、その後、吉田洋二学長より、内蒙古医学院との交流事業の具体的なプログラム検討の指示があり、2002年9月に内蒙古医学院を訪問(山梨医科大学 松本由朗教授、王培玉講師、山本本や専門職員)、内蒙古医学院でも2003年度から「先端医学講座」を実施することで両校が合意しました。

最初の「先端医学講座」は、内蒙古医学院で2003年9月8日～9月13日、中国医科大学で2003年9月13日～9月17日の期間に、前者では日本語クラスの学生、後者では大学院生と研究者等を対象に実施しました。

講義を実施して感じたことは、両大学とも受講生の態度が真面目で、非常に熱心に聴き入り、講義後の質問には講義時間を大幅に超えることもありました。

今年で6回目の実施となる「先端医学講座」の講義対象者は、第1回目と同じで中国医科大学では日本語クラスの学生、内蒙古医学院では大学院生と研究者ですが、来年の実施に向けて新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。「国際化とは」なんなのか、国際化によって得られるメリットは何なのか、どのようなメリットを得るために国際化を図ろうとするのか、これらの視点の明確化と再確認が今後、「先端医学講座」を推進する上で必要ではないかと感じております。

## 内蒙古医学院(協定校)との交流状況(2009年1月)

### 「先端医学講座」の実施

#### ・第1回「先端医学講座」実施

実施時期 : 2003年9月8日～9月13日

実施講座 : 解剖学講座第1教室、病理学講座第2教室

派遣講師等 : 大野伸一教授、加藤良平教授、王培玉講師、山本本や専門職員

#### ・第2回「先端医学講座」実施

実施時期 : 2004年9月7日～9月12日

実施講座 : 生理学講座第1教室

派遣講師等 : 有田順教授、王培玉講師、山本本や留学生担当

#### ・第3回「先端医学講座」実施

実施時期 : 2005年9月8日～9月12日

実施講座 : 耳鼻咽喉科学講座、免疫学講座

派遣講師等 : 増山教授、中尾教授、山本本や留学生担当

協力者 : 王培玉北京大学教授

#### ・第4回「先端医学講座」実施

実施時期 : 2006年6月25日～7月3日

実施講座 : 人体病理学、整形外科学

派遣講師等 : 加藤良平教授、浜田良機教授、山本本や国際交流担当

協力者 : 王培玉北京大学教授

#### ・第5回「先端医学講座」実施

実施時期 : 2007年7月5日～7月8日

実施講座 : 人体病理学

派遣講師等 : 加藤良平教授、山本本や国際交流担当

協力者 : 王培玉北京大学教授

#### ・第6回「先端医学講座」実施

実施時期 : 2008年6月23日～6月25日

実施講座 : 分子情報伝達学講座

派遣講師等 : 北村正敬教授、浜田良機教授、山本本や国際交流担当

#### ・協議事項

今後の学術交流事業等について

担当教員等 : 浜田良機教授(医学部留学生委員会委員長)、山本本や(国際交流担当)

看護学科との学術交流等に関する協議

担当教員等 : 高田谷久美子教授、山崎洋子教授

#### 第1回内蒙古医学院の病理診断業務支援プロジェクト(派遣)

実施時期 : 2006年6月28日～7月1日

実施講座 : 人体病理学

派遣講師 : 加藤良平教授、弓納持勉(附属病院病理部主任技師)

#### 第2回内蒙古医学院の病理診断業務支援プロジェクト(派遣)

実施時期 : 2006年7月5日～7月8日

実施講座 : 人体病理学

派遣講師 : 加藤良平教授、弓納持勉(附属病院病理部副部長)

#### 第3回内蒙古医学院の病理診断業務支援プロジェクト(受入)

実施時期 : 2008年3月～5月

実施講座 : 人体病理学

派遣講師 : 内蒙古医学院病理学教室 教授 師永紅

## 山梨大学医学部における内蒙古医学院研修者の受入れ

- ・第1回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2002年11月～2003年2月  
 受入講座：外科学講座第1教室  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医3名(仝林虎、呉万敏、趙海平)
- ・第2回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2003年9月～2003年12月  
 受入講座：内科学講座第2教室、神経内科、精神神経科医学講座、眼科学講座  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医3名(趙世剛、董京生、韓萍)
- ・第3回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2004年4月～2004年6月  
 受入講座：内科学講座第1教室、脳神経外科学講座、産婦人科学講座  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医3名(王涛、蘇秉忠、宋静慧)
- ・第4回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2004年10月～2004年12月  
 受入講座：麻醉科学講座、眼科学講座、小児科学講座、放射線医学講座  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医4名(干建設、陸蓓、任少敏、劉挨師)
- ・第5回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2005年4月～2005年7月  
 受入講座：内科学第2教室、外科学第2教室、整形外科学講座  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医3名(張世新、揚勇、高旭東)
- ・第6回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2005年11月～2006年1月  
 受入講座：内科学第2教室、整形外科学講座、皮膚科学講座、耳鼻咽喉科学講座  
 眼科学講座  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医5名(王晓彦、付秀華、崔曉波、呉一民、王中穎)
- ・第7回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2006年4月～2006年6月  
 受入講座：内科学第3教室、外科学第2教室、泌尿器科学  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医3名(趙建榮、閻駿、高榮)
- ・第8回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2006年9月～2006年12月  
 受入講座：外科学第1教室、眼科学、整形外科学  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医4名(王万祥、王茂春、朱丹、祝勇)
- ・第9回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2007年4月～2007年6月  
 受入講座：外科学第2教室、眼科学、第3内科、整形外科学  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医4名(趙海霞、郭占林、劉暘、邢文華)
- ・第10回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2008年2月～2008年5月  
 受入講座：産婦人科学、第2内科、整形外科学、脳神経外科学  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医4名(索静、陳鳳英、南海鷗、王翔毅)
- ・第11回「内蒙古医学研修者」受入  
 受入期間：2008年10月1日～2008年12月29日  
 受入講座：眼科、皮膚科、整形外科、血液・腫瘍内科及び第1内科  
 受入人数：内蒙古医学院臨床医5名(包秀麗、賀伟、張沛、張连生、王亚兰)

## 中国医科大学(協定校)との交流状況(2009年1月)

### 「先端医学講座」の実施

- ・第1回「先端医学講座」実施  
実施時期 : 2003年9月13日～9月17日  
実施講座 : 解剖学講座第1教室及び病理学講座第2教室  
派遣講師等 : 大野伸一教授、加藤良平教授、王培玉講師、山本本や専門職員
  
- ・第2回「先端医学講座」実施  
実施時期 : 2004年8月29日～9月2日  
実施講座 : 泌尿器科学講座  
派遣講師等 : 武田正之教授  
  
実施時期 : 2004年9月12日～9月15日  
実施講座 : 生理学講座第1教室  
派遣講師等 : 有田順教授、王培玉講師、山本本や留学生担当
  
- ・第3回「先端医学講座」実施  
実施時期 : 2005年9月5日～9月15日  
実施講座 : 免疫学講座及び耳鼻咽喉科学講座  
派遣講師等 : 中尾篤人教授、増山敬祐教授、山本本や留学生担当
  
- ・第4回「先端医学講座」実施  
実施時期 : 2006年6月25日～6月28日  
実施講座 : 人体病理学講座及び整形外科学講座  
派遣講師等 : 加藤良平教授、浜田良機教授、山本本や国際交流担当
  
- ・第5回「先端医学講座」実施  
実施時期 : 2007年6月19日～6月22日  
実施講座 : 生理学講座第2教室  
派遣講師等 : 佐藤悠教授、秦嶺助教、山本本や国際交流担当
  
- ・第6回「先端医学講座」実施  
実施時期 : 2008年6月19日～6月20日  
実施講座 : 分子病理学講座  
派遣講師等 : 範江林教授、山本本や国際交流担当

### 「短期留学医学専門特別講義及び実習」の実施

- ・第1回「短期留学医学専門特別講義及び実習」実施  
実施時期 : 2003年8月23日～8月30日  
実施講座 : 解剖学講座第1教室 大野伸一教授  
実施場所 : 講義室及び解剖学実習室  
受入れ学部生等  
中国医科大学解剖学教授(呂永利)  
中国医科大学学部生3名(劉健、陳穎、鄭分慧)
  
- ・第2回「短期留学医学専門特別講義及び実習」実施  
実施時期 : 2004年8月29日～9月5日  
実施講座 : 解剖学講座第1教室 大野伸一教授  
実施場所 : 講義室及び解剖学実習室  
受入れ学部生等  
中国医科大学学部生3名(唐春花、李聰、張大林)

第1回 山梨大学医学部先端医学講座

# 無限への漸進

国境を越え先端医学講座始動

中国医科大学  
内蒙古医学院  
山梨大学医学部

# 第1回 山梨大学医学部先端医学講座

# 名誉教授の称号を授与

大野伸一教授(第一解剖学)加藤良平教授(第二病理学)



いて講義をしました。次いで加藤教授が「日本の甲状腺癌」ということで、日本における甲状腺癌の生物学的特徴や分子病理学的背景などについて詳細に講義をしました。その後、今回の先端医学講座の開講と両大学の友好をたたくて内蒙古医学院畢力夫学長より、

また、以前に山梨医科大学(現山梨大学)に留学した中国医科大学に所属する同窓生との親睦会も行われました。

この内蒙古医学院と中国医科大学で開講された先端医学講座は、平成14年3月に吉田洋二山梨大学長(前山梨医科大学長)のリーダーシップのもとに「特色ある海外学術交流を目指して、山梨大学医学部の先端的医学研究や最新医療技術を交流協定校に広くアピールする」ことを目標として、始められた海外交流プロジェクトの1つです。本年は第1回目であり、まず解剖組織学分野と病理学分野から開講しましたが、来年度は両協定校の要請に応じて、他の基礎医学や臨床医学分野での開講が考えられています。

去る平成15年9月8日から12日まで、中国西北部の内蒙古自治区呼和浩特市にある内蒙古医学院を山梨大学医学部解剖学第1教室大野伸一教授、病理学第2教室加藤良平教授、保健学第1教室王培玉講師および留学生課山本本や専門職員が訪問し、第1回先端医学講座を開講しました。まず大野教授が、同大学医学部教官と研究者および大学院生を対象に「生体内凍結技法による動的細胞組織の超微形態学的解析」とのタイトルで、“生きた動物臓器の微細構造”につ

大野教授と加藤教授に名誉教授の称号が贈与されました。この開設された先端医学講座が、今後も長く継続されて、両大学の教育・研究交流が一層盛んになることが望まれます。その後、続いて9月13日から17日まで、中国北部遼寧省瀋陽市にある中国医科大学を訪問し、日本語クラスと英語クラスの医学生を対象に内蒙古医学院と同様の内容で先端医学講座を開講しました。中国医科大学では、さらに共同研究プロジェクトの立案や研究者の具体的な交流等も検討されました。

本学と約10年の学術交流実績のある中国医科大学、また新たに昨年からの学術交流協定校となった内蒙古医学院は、大学規模のさらなる拡大と新大学病院の移転など将来の発展が大いに期待されています。先端医学講座を始めとする山梨大学医学部の協力態勢が、両校の医学研究と臨床医学の進歩の一助になることが望まれます。





自2003年9月8日至12日止,山梨医科大学解剖学第一教室的大野伸一教、病理学第二教室的加藤良平教授、保健学第一教室的王培玉讲师以及留学生科的山本先生对位于中国西北部内蒙古自治区呼和浩特市的内蒙医学院进行了为期4天的专门访问,并举办了第一次尖端医学讲座在、此讲座上,首先大野教授以《利用活体内冷冻法对动态细胞组织的超微形态学分析》为题,就活着的动物器官的微细构造为我大学医学部的教师、科研人员、研究生等做了专题讲演。接着加藤教授以《日本的甲状腺癌》为题,详细地讲解了日本的甲状腺癌的生物学特征及其病理学背景等内容。此后,为表彰本次尖端医学讲座的开设及在两大学的友好往来上所做的贡献,内蒙古医学院的毕力夫校长授予大野教授和加藤教授名誉教授的称号。本

次开设的尖端医学讲座今后也将长期坚持下去,希望两大学的教育、科研交流在此基础上会进一步地得到加深。

9月13日至17日我们接着又访问了位于中国北部辽宁省沈阳市的中国医科大学。在那里以日语班和英语班的医学生为对象举办了与内蒙古医学院相同内容的尖端医学讲座在。在中国医科大学又就合作研究计划的立案以及研究人员的具体交流实施等事项做了探讨并。与中国医科大学的原山梨医科大学(现在的山梨大学)的留学生们一起举办了联欢会。

“以有特色的海外学术交流为目标,将山梨大学医学部的尖端医学研究和最新的医疗技术向交流合作校进行广泛的推广”是山梨大学吉田洋二校长(原山梨医科大学校长)的领导方针,以此指导方针为目标开始实施

的海外交流计划之一就是在内蒙古医学院和中国医科大学举办的尖端医学讲座。本年度第一次讲座首先是从解剖组织学和病理学领域开始进行的,我们正在考虑明年应两合作校的要求,开展其他的基础医学和临床医学领域的讲座。

我们期待着与我大学有着近10年的学术交流成果的中国医科大学、以及从去年新缔结学术交流合作关系内蒙古医学院在进一步扩大学校规模及新大学病院的迁址等计划实施下将来会得到更大的发展。希望以尖端医学讲座为开端的山梨大学医学部的诚挚合作会在两校的医学研究和临床医学的进步上发挥一定的作用。





# 第1回山梨大学医学部 短期留学医学専門特別講義及び実習

## Schedule スケジュール

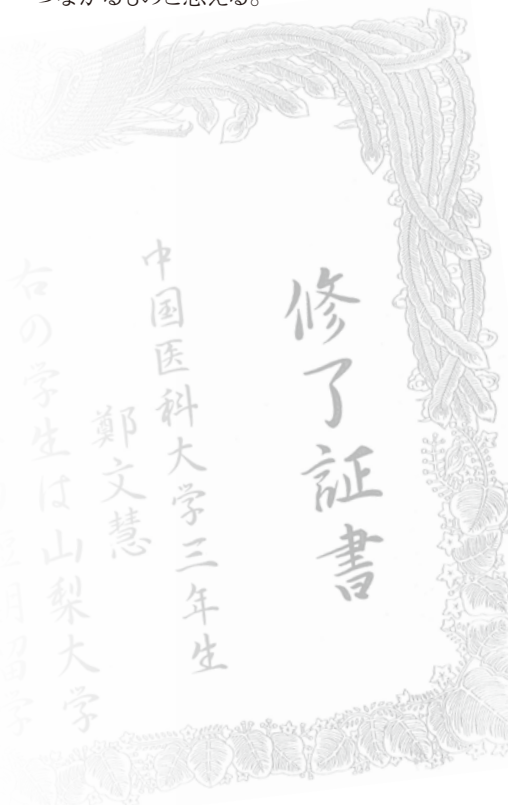
- ・ 第1回 山梨大学医学部先端医学講座の実施
- ・ 実施期間:  
2003年9月8日～9月17日
- ・ 実施大学:  
内蒙古医学院・中国医科大学
- ・ 派遣教員等:  
大野伸一教授  
(解剖学講座分子組織学教室)  
加藤良平教授(人体病理学講座)  
王培玉講師(保健学1講座)  
山本本や(留学生担当)
- ・ 講義演題  
・ 大野伸一教授  
「生体内凍結技法による動的細胞組織の超微形態学的解析」  
加藤良平教授  
「日本の甲状腺腺瘤」  
王培玉講師 講義通訳
- ・ 内蒙古医学院及び中国医科大学での協議事項等
  - ① 第2回「先端医学講座」の講義科目及び講義日程等について
  - ② 内蒙古医学院研修者(臨床医・基礎研究者)の山梨大学医学部での研修等について
  - ③ 中国医科大学同窓会役員との今後の交流について
  - ④ 中国医科大学学部生の「短期留学医学専門特別講義及び実習」について



新しい学術交流事業である短期留学医学専門特別講座が、平成15年8月23日～30日まで、本学医学部解剖学第1教室と解剖実習室で行われた。今回は、長年の交流協定校である中国医科大学より、呂永利解剖学教授に引率されて、選ばれた優秀な3名の医学部日本語クラス3年次生が来学した。呂教授は中国医科大学の解剖学授業を日本語で行っており、この医学生日本語会話能力と解剖学関連知識は、非常に高いものであった。その週の月曜日から金曜日までの毎日、本学解剖学教官指導のもとで人体解剖実習を行った。以前より中国医科大学では、御遺体不足の為に十分な解剖実習ができなかったようであり、医学生にとっては大変に有意義な実習となった。また呂教授と本学教官は、御遺体についての学術的討論を行うことで、専門解剖学知識の相互理解を深めることができた。このように優秀な中国医科大学の医学生を本学に招き、基礎医学分野や臨床医学分野の教育機会を与えることが、将来的には両大学の一層の学術交流活性化につながるものと思える。



自2003年8月23日开始到30日为止在本大学医学部的解剖学第一教室和解剖实習室举办了作为新的学术交流事业的短期留学医学专业特别讲座。作为长年交流合作校的中国医科大学委派解剖学教授吕永利老师率领三名医学部日语班三年级优秀医学生来到本大学学习。因为吕教授在中国医科大学用日语讲授解剖学,所以这些医学生的日语会话能力和解剖学相关知识水平都非常高。在此留学的一星期内,在我大学解剖学教师的指导下,他们每天都进行了人体解剖实習。来日前,在中国医科大学由于尸体来源不足医学生都没有能够进行充分的人体解剖实習,所以这次实習对这些医学生来说是一次非常有意义的学习机会。另外吕教授和本大学的教师就尸体进行了学术讨论,加深了在专业解剖学知识领域的相互理解。我们认为邀请如此优秀的中国医科大学的医学生来本大学,给他们提供基础医学领域和临床医学领域的学习机会将会成为活化加深两大学之间学术交流的有力之举。



第2回 山梨大学医学部先端医学講座

# より強固な架け橋へ

充実の二年目〜先端医学講座〜

中国医科大学

92 North 2nd Ave, Heping District,  
Shenyang, Liaoning, P.R. China  
Tel : 86-24-23862578

内蒙古医学院

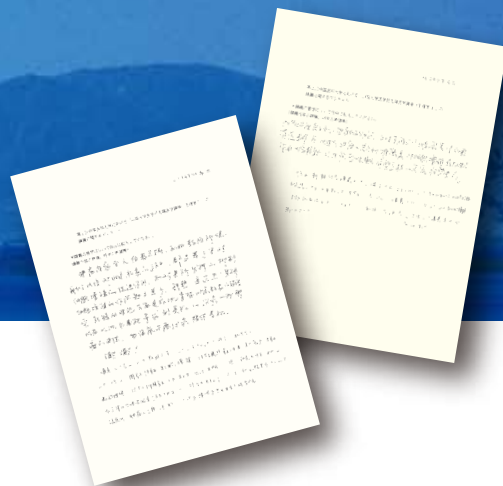
5Xinhuna St. Huhehot Inner Mongolia  
Autonomous Region P.R. China  
Tel : 0086-471-6963000

山梨大学医学部

山梨県中巨摩郡玉穂町下河東1110番地  
Tel : 055-273-1111(代表)

# 第2回 山梨大学医学部先端医学講座

# 充実の2年目



## 環境遺伝医学講座 久保田 健夫

昨年6月、中華人民共和国の内モンゴル自治区にある内蒙古医学院を訪問して参りました。内モンゴル自治区は、北京より1時間ほど飛行機で内陸に入った草原の地で、6月はそよ風がこちよい1年で最も美しい季節でした。今回の訪問では主に、最新の実験機器がそろった分子生物学センターをみせていただき、「エピジェネティクス-新しい分子遺伝学-」と「最新遺伝子診断事情」と題して2つの講義をさせていただきました。この訪問を通じて多数の中国の方と親睦をはかることができ、この場をお借りして関係の方々に深く感謝申し上げます。

去年6月、我访问了位于中华人民共和国内蒙古自治区的内蒙古医学院。内蒙古自治区属内陆草原，乘飞机从北京出发大约需要一个小时。6月的内蒙古微风拂面，是一年里最美丽的季节。此次访问一是参观该校设备先进齐全分子生物学中心；二是就「epigenetics--新分子遗传学」及「最新基因诊断情况」两个题目发表演讲。此次访问达到了与很多中国同行亲和的目的，藉此机会向相关各位深表谢意。



## 泌尿器科学 武田 正之

平成16年8月29日から9月3日までの6日間、中国医科大学を訪問しました。今回は短期間の滞在であったため、附属第2医院泌尿器科での内視鏡下手術（腹腔鏡下副腎摘出術、腎摘出術など）の指導と講演だけを行いました。第2医院泌尿器科教授のWu Bin先生は日本医科大学に留学のご経験があることから日本語がお上手であるため、慣れない手術室や器械の操作にも容易に対処できました。附属第2医院は現在、瀋陽市の中心部の大変にぎやかな場所に位置しており、ベッド数は約1,500という巨大な病院です。

2004年8月29日-9月3日の6天里，我访问了中国医科大学。此次访问为短期交流，主要目的为指导中国医科大学附属二院泌尿科的内窥镜手术（腹腔镜下肾上腺摘除术、肾摘除术等等）及演讲。附属二院泌尿科的吴斌教授曾留学于日本医科大学。得益于他出色的日语，不太习惯的手术室及器械的操作变得很容易应对。附属二院位于沈阳市繁华街区，是一所拥有1500张床位的大型医院。



## 生理学講座 第一教室 有田 順

中国モンゴル自治区の呼和浩特市にある内蒙古医学院および瀋陽にある中国医科大学を訪問し、姉妹校交流活動の一環として第2回山梨大学医学部先端医学講座を開催しました。平成16年9月8日、内蒙古医学院にて教員、大学院学生を中心とした約200名の参加者のもとに、北京大学王培玉教授(前山梨大学医学部助手)による中国語通訳を交え、「女性ホルモンの作用」に関する講演を行いました。修士学生の講演への関心は非常に高く、特に女性ホルモンの多彩な働きを中心に講演後の質疑応答も長時間に及びました。次に9月14日、中国医科大学にて生理学系教員、研究者を対象として、「女性ホルモンと細胞増殖」に関する講演を行いました。ここでは女性ホルモンが増殖を調節する巧妙かつ複雑な機構に関して、多くの専門的意見の交換が行われ、この先端医学講座に対する強い期待が感じられました。

作为友好学校交流活动的一个环节，我访问了位于中国内蒙古自治区呼和浩特市内蒙古医学院和位于沈阳的中国医科大学，并在那里举行了第2回山梨大学医学部先端医学讲座。2004年9月8日，我在内蒙古医学院进行了题为「雌激素的作用」的演讲，参加者主要为该校教师及研究生，共计200人左右。北京大学的王培玉教授(前山梨大学医学部助手)担当了翻译。与会的硕士生对演讲表现出很浓厚的兴趣，特别就雌激素多彩的生理作用在演讲后提出了很多问题，讨论进行了很长时间。9月14日，又针对中国医科大学生理系的教师及研究者，在中国医科大学进行了题为「雌激素与细胞的增殖」的演讲。在那里，有关雌激素对增殖巧妙而复杂的调节机制，我与大家进行了广泛而专业的交流。这使我感到了他们对先端医学讲座的热忱期待。



## 第2回 山梨大学医学部短期留学 医学専門特別講義及び実習



昨年度より山梨大学医学部で開始された国際学術交流事業である第2回短期留学医学専門特別講座が、平成16年8月30日～9月3日までの5日間、本学医学部解剖学第1教室と解剖実習室において開講された。今回も昨年度同様に長年の交流協定校である中国医科大学より、とくに選抜された優秀な3名の医学部日本語クラス3年次生が来学した。来日した3名の医学生は、中国医科大学において解剖学の講義および試験を日本語で受講しており、彼らの日本語会話能力と解剖学関連知識レベルには、非常に高いも

のがあった。来学したその週の月曜日から金曜日までの毎日、解剖学第1教室教官指導のもとに人体解剖実習を行った。以前より中国医科大学では、御遺体不足の為に実際的な解剖実習が十分にできなかったようであり、医学生にとっては非常に有意義な実習となった。このように中国医科大学の優秀な医学生を本学に招き、基礎医学分野および臨床医学分野における教育・実習の機会を作ることが、将来的には両大学の学術交流の一層の活性化につながるものと考えられる。



始于去年的山梨大学医学部の国際交流項目--第2回山梨大学医学部短期留学医学専門特別授課于2004年8月30日至9月3日在解剖学第1教研室展开。今年与去年一样，三名从我校多年的交流协定校--中国医科大学日语医学班选拔的优秀学生来到我校。这3名学生在中国医科大学曾用日语接受解剖课的学习，他们的日语会话能力及解剖学关联知识水平非常高。在日的周一至周五，他们在解剖学第1教研室指导教师的指导下进行了解剖学实习。此次实习弥补了中国医科大学尸体不足的缺憾、对身为医学生的他们很有意义。此次，将中国医科大学的优秀学生邀请至本校，给他们创造基础及临床的教学实习机会，会对将来两大学学术交流的进一步深化产生深远影响。

# Schedule

スケジュール

- ・ 第2回 山梨大学医学部先端医学講座の実施
- ・ 実施期間:  
2004年8月29日～9月3日
- ・ 実施大学: 中国医科大学
- ・ 派遣教員等:  
武田正之教授(泌尿器科学講座)  
山本本や(留学生担当)
- ・ 講義演題  
・ 武田正之教授「泌尿器科領域における体腔鏡下手術」  
「前立腺疾患に対する最新の治療法」  
「排尿障害の診断と治療の現況」
  
- ・ 実施期間:  
2004年9月7日～9月15日
- ・ 実施大学: 内蒙古医学院
- ・ 派遣教員等: 有田順教授(生理学講座第1教室)  
王培玉講師(保健学1講座)  
山本本や(留学生担当)
- ・ 講義演題  
・ 有田順教授  
「エストロゲンによる下垂体前葉の機能調節」  
「エストロゲン感受性細胞における細胞増殖の調節」  
王培玉講師 講義通訳
  
- ・ 特別講義及び漢方薬施設見学
- ・ 実施期間:  
2004年6月19日～6月24日
- ・ 実施大学: 内蒙古医学院
- ・ 派遣教員等:  
久保田健夫教授(保健学1講座)  
王培玉(保健学1講座)  
丹沢 泉(薬剤部主任)  
山本本や(留学生担当)
- ・ 講義演題  
・ 久保田健夫教授  
「エピジェネティクス-新しい分子遺伝学」  
「最新遺伝子診断事情」  
王培玉講師 講義通訳
  
- ・ 内蒙古医学院及び中国医科大学での協議事項等
- ① 第3回「先端医学講座」の講義科目及び講義日程等の打合せ
- ② 内蒙古医学院研修者(臨床医・基礎研究者)の山梨大学医学部での研修等について
- ③ 中国医科大学同窓会役員との懇談会実施

# 留学生同窓会



## 劉伝会教授の医学部同窓会定例総会記念講演 -確かな絆と新たな挑戦

医学部同窓会では、2004年7月10日の定例総会に中国医科大学脳神経外科教授の劉伝会先生をご招待し、記念講演を開催しました。劉先生は本学の脳神経外科に留学されたことがあり、現在は、本同窓会の中国医科大学支部の会長として、本学との交流の牽引をされています。

劉先生は講演の中で、本学に留学した先生方の中から5名の教授、6名の助教授が輩出されて活躍されていること、劉先生自身は留学で、研究面のみならず、日本の生活や多くの人達との交流が現在のご自身の教育、臨床、研究に大きな影響を与えていること、今後も若い人たちが交流をもっとほしいとお話になりました。

今回の記念講演は劉先生の真摯なお人柄と明快なご講演により成功を修めました。私は中国医科大学支部との確かな絆を実感すると共に、互いの発展のために新たな挑戦をしていく決意を強くもちました。

山梨医科大学・山梨大学同窓会会長 山縣然太郎

## 刘云会教授的医学部同窗会例会总会纪念演讲 -坚实的纽带与新的挑战

在2004年7月10日举行的医学部同窗会例会总会中，我们邀请了中国医科大学脑神经外科的刘云会教授作了纪念演讲。刘教授曾经在本学脑神经外科留学，现任中国医科大学支部会长并成为与本校交流的牵头人。

刘教授在演讲中提到，曾在本学留学并学成归国的来自中国医科大学的留学生中，目前已经有5人晋升为教授，6人晋升为副教授，他们都活跃在自己的工作岗位上。刘教授在谈到其留学生活时说，在日本，不仅是科研方面，而且在日常生活方面以及在留学过程中与很多人的交流，都对他本人现在的教学，临床及研究产生很大影响。他希望今后年轻一代留学生也要加强这种交流。

此次纪念演讲凭借刘教授一丝不苟的为人及明快的演说而获得圆满成功。而我在深切感到与中国医科大学支部间坚实纽带联系的同时，也下定决心为了共同的发展而向更新的目标挑战。

山梨医科大学・山梨大学同窗会会长 山縣然太郎



第3回 山梨大学医学部先端医学講座

# 国境無き進歩の追求

— 確かな足跡を残して —

中国医科大学  
内蒙古医学院  
フロンティア大学医学部  
山梨大学医学部



# 第3回 山梨大学医学部先端医学講座



## 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 増山 敬祐

2005年9月5日から15日まで中国を訪ねました。まず、瀋陽にある中国医科大学では姉妹校交流活動の一環として、日本語クラス5年生の授業を行い、内モンゴル自治区の呼和浩特(フフホト)とパオトウにある内蒙古医学院では、「頭頸部癌治療における最近の進歩」と題して第3回山梨大学医学部先端医学講座を開催いたしました。

今回は初めての訪中で不安はありましたが、中国医科大学では日本語クラスの生徒さんの熱心な授業態度と日本語の理解度に感動し、内蒙古医学院では北京大学王培玉教授による的確な通訳のおかげで質疑応答も活発に行われ無事任務を終えることができました。特に内モンゴルでは熱烈な歓迎を受け、本

学との研究教育交流にける意気込みを肌で感じました。

今後先端医学講座を足がかりに、両国の絆を深めお互いの発展のために寄与できるよう努力していきたいと思ひます。

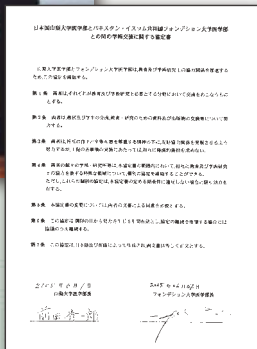
我于二零零五年九月五日至十五日对中国进行了讲学访问。首先，作为交流活动的一个环节，在沈阳，与我大学的姐妹学校中国医科大学的日语专业五年级的学生进行了日语的教学活动。接着在内蒙古自治区呼和浩特市及包头市的内蒙古医学院以“关于头颈部癌症治疗的最新进展”为题，进行了专题讲座，这是山梨大学医学部先端医学讲座在中国的第三次举办。

这次访问，开始时有些忐忑不安，然而中国医科大学的日语专业的学生们，认真热情地听讲态度和对日语的理解程度，使我受到感动，对此次访问有了自信。在内蒙古医学院讲学中，因为有北京大学王培玉教授准确、流畅的翻译，使听众踊跃提问和自己的解释得以顺利进行，从而圆满地完成了中国之行的专题讲座。这要向王培玉教授表示再次的感谢。特别是在内蒙古受到了热烈的欢迎，我切身感到了内蒙古同仁对于与我校的交流所报有的强烈热情。

今后，我要立足于尖端医学的研究，为日中两国之间友好情意的深入发展尽力做出贡献。



## フォンデション大学との



山梨大学医学部は、パキスタンのイスラマバード郊外のラウルペンディーに、2000年に設立されたフォンデション大学医学部と大学間学術交流協定を締結した。

両大学は、人材の交流、共同研究、出版物の交換などの相互交流を促進するため協定締結の検討を進めていたもので、2005年4月25日から5月1日まで、浜田良機教授、山本本や(留学生担当)がフォンデション大学を訪問、協定に向けての協議を行ない、その合意をうけて2005年6月7日に前田医学部長と Iftikhar Ahmed Malik 学長が協定書に調印した。なおこ

# ～ 充実の3年目 ～



## 免疫学 中尾 篤人

第3回山梨大学医学部先端医学講座の講師として、中国医科大学ならびに内蒙古医学院において、私の研究テーマである“Transforming growth factor- $\beta$  (TGF- $\beta$ ) シグナルに関する医学研究”について講演をさせていただく機会を得ました。中国医科大学や内蒙古医学院の人達の熱心な聴講姿勢、新しい知識の取得への情熱に、非常に感銘をうけました。今回の機会を通じて、私自身、医学研究という世界の人達と共通に議論しあえる仕事を選んでよかったと、あらためて思うと同時に、今後、中国における医学の発展に少しでも貢献することができれば、と思う次第です。

我作为第三次山梨大学医学部先端医学讲座的讲师。有幸参加了由中国医科大学及内蒙古医学院举办的医学研究成果研讨会。在会上，我有机会就自己的研究课题：“关于变形成生长要因 $\beta$  (TGF- $\beta$ ) (Transforming growth factor- $\beta$ ) 信号的医学研究”做了讲演。中国医科大学和内蒙古医学院同仁们认真地听讲态度，热情的求知欲令我非常感动。通过这次演讲会，我感到，自己选择的能与世界同仁共同探讨的被称为医学研究的工作，是选择对了，在这样认为的同时，也希望今后自己能够为中国的医学发展做出些微薄的贡献。



## 学術交流に関する協定書

の協定締結に至るまでのナジャム氏の尽力には感謝している。なお氏は1987年から5年間山梨大学(当時 山梨医科大学)整形外科学教室で研究、山梨医科大学より医学博士の称号を授与されている。今後は、フォンデション医科大学からの研究者の受け入れ、山梨大学医学部からの先端医学の講義およびITを利用した情報の提供を中心とした教育、研究分野での活発な交流が期待される。

整形外科学 浜田 良 機





# Schedule

スケジュール

- ・第3回 山梨大学医学部先端医学講座の実施
- ・実施期間：2005年9月5日～9月8日
- ・実施大学：中国医科大学
- ・派遣教員等：
  - 増山敬祐教授（耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座）
  - 中尾篤人教授（免疫学講座）
  - 山本本や（留学生担当）
- ・講義演題
- ・増山敬祐教授 「頭頸部癌治療における最近の進歩」
- 中尾篤人教授 「Transforming growth factor-beta シグナルに関する研究」
- ・実施期間：2005年9月8日～9月12日
- ・実施大学：内蒙古医学院
- ・派遣教員等：
  - 増山敬祐教授（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座）
  - 中尾篤人教授（免疫学講座）
  - 王培玉教授（北京大学医学部）
  - 山本本や（留学生担当）
- ・講義演題
- ・増山敬祐教授 「頭頸部癌治療における最近の進歩」
- 中尾篤人教授 「Transforming growth factor-beta シグナルに関する研究」
- 王培玉教授 講義通訳
- ・内蒙古医学院及び中国医科大学での協議事項等
  - ①第4回「先端医学講座」の講義科目及び講義日程等について
  - ②中国医科大学学部生の山梨大学医学部での研修等打合せ
  - ③中国医科大学同窓会との交流事業打合せ及び懇談会
  - ④中国医科大学との「学术交流協定10周年記念事業」の打合せ
  - ⑤内蒙古医学院研修者（臨床医・基礎研究者）の山梨大学医学部での研修等について
  - ⑥内蒙古医学院研修者「同窓会設立」について

# 内蒙古医学院附院 日本留学生会同窓会の発足

## 「内蒙古医学院附属病院 日本留学会」の設立

内蒙古医学院と山梨大学医学部の学术交流を更に発展させるため、内蒙古医学院に在籍する医師及び基礎医学分野の研究者を山梨大学医学部に受入れ、本学部の優れた医学研究及び先端医療技術等を研修することにより、内蒙古医学院における各専門分野の知識と技能の向上を深めることを目的に、内蒙古医学院の研修者の受入れがはじまった。

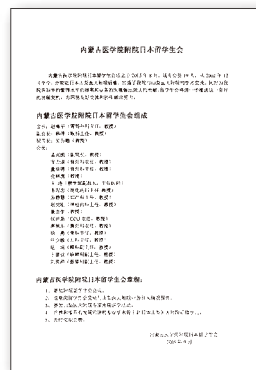
2002年11月に3名の外科医の受入れをはじめに、現在までに(2005年11月)15講座(内科学第1、内科学第2、神経内科、小児科学、精神神経医学、皮膚科学、外科学第1、外科学第2、整形外科、脳神経外科学、麻酔科学、産婦人科学、眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、放射線医学)へ、21名の研修者を受入れた。2005年9月に、内蒙古医学院の研修者が「内蒙古医学院附属病院日本留学会」を設立しました。今後、設立した「日本留学会」が発展して、両大学の学术交流が更に深まり更に前進することを希望してやみません。

## 内蒙古医学院附属医院-日本留学会成立

为了更进一步促进内蒙古医学院与山梨大学医学部两校之间的学术交流，山梨大学医学部以提高内蒙古医学院各专业的医疗水平与技能为目的，接收内蒙古医学院的教师，在职医师及基础医学专业的研究人员来医学部，学习先进的医学知识及对尖端的医疗技术等方面进行学术交流与探讨。这项工作已经顺利展开。

从2002年11月开始首次接收内蒙古医学院3名外科医师，至2005年11月底，共接收了15批21名访问学者。涉及专业有第一内科学，第二内科学，神经内科，小儿科，精神医学科，皮肤科，第一外科，第二外科，骨科，脑神经外科，麻醉科，妇产科，眼科，耳鼻喉科，头颈部外科，放射科等16个相关专业。

2005年9月，内蒙古医学院的留日访问学者们成立了内蒙古医学院附属医院『日本留学会』。我们相信，日本留学会的成立，将更好地推动两校之间的学术交流活动朝着更好更深的方向发展，这是我们非常希望和期待的事情。



第4回 山梨大学医学部先端医学講座

# あくなき探究心

— 新しい可能性を追い続けて —



中国医科大学  
内蒙古医学院  
山梨大学医学部

第4回 山梨大学医学部  
先端医学講座

## 4年目をむかえて

## 人体病理学講座 加藤 良平



山梨大学医学部先端医学講座が、平成18年6月25日から7月3日まで、中国遼寧省瀋陽市の中国医科大学および内蒙古自治区呼和浩特市の内蒙古医学院で行われ、整形外科の浜田良機教授、留学生課の山本本や事務官とともに訪れた。また、本事業の協力者として北京大学の王培玉教授、史講師も同行した。中国医科大学では、医学部日本語クラスの学生を対象に甲状腺癌発生の遺伝子背景について講義したが、彼らの日本語の理解度は意外に高く、講義内容の多くを理解しているのに驚かされた。中国医科大学では、学長とも接見し、両大学の友好関係のさらなる発展を確認した。引き続き訪れた内蒙古医学院では、新附属病院の目玉として病理診断センターの開所式が盛大に行われた。また、この病理診断センターの開設にあたり「山梨大学内蒙古医学院病理診断支援プロジェクト」が企画され、本学附属病院病理部の弓納持勉技師と留学生の紐東峰君も参加した。病理診断センターの開所式の記念講演として、小生が「日本の病理医教育」について講演し、弓納持氏が「組織細胞診断」について講義した。講義後の大学執行部との会議では、本学の病理診断支援プロジェクトの継続が強く要望された。

最後に、先端医学講座および病理診断支援プロジェクトの実施にあたり、協力いただいた北京大学の王教授に感謝するとともに、大学間での交渉、事務レベルでの折衝に努力された山本事務官に謝意を表します。

## 人体病理学教研室 加藤 良平

山梨大学医学部先端医学講座于平成18年6月25日至7月3日在中国辽宁省沈阳市的中国医科大学及内蒙古自治区呼和浩特市の内蒙古医学院举行。同行的还有骨科的浜田良机教授及留学生課の山本本や事務官。此外，一直给予我们协助的北京大学王培玉教授及史讲师也同行前往。在中国医科大学，我给日语医学班的学生讲授了有关甲状腺癌发生的遗传背景的课，他们对日语的理解程度之深超乎我的想像，我很惊叹他们对讲义的理解程度。在中国医科大学，我们也得到了学长的接见，确认了两大大学的进一步友好关系。在我们接着访问的内蒙古医学院，恰逢新建附属医院最惹人瞩目的病理诊断中心举行盛大的落成典礼。随着该病理诊断中心的成立，山梨大学内蒙古医学院病理诊断支援项目也正式启动，我校附属医院病理科的弓納持勉技師及留学生紐東峰也一同参加了开幕式。作为病理诊断中心成立的纪念演讲，鄙人以日本の病理医教育为题，弓納持先生以组织细胞诊断为题进行了讲课。会后，在与大学执行部门的交流会上，他们对我校的病理诊断支援项目的继续援助给予了厚望。

最后，我要对在先进医学讲座及病理诊断支援项目的实施上给予大力协助的北京大学王教授致以谢意，对在大学间的各种交涉及事务性工作中付出很大努力的山本事務官表示感谢。

## 整形外科講座 浜田 良機



今年6月の末に中国医科大学、内蒙古医学院を人体病理学の加藤教授とともに訪問、先端医学講座として「小皮切による人工股関節置換術」の講義を行いました。中国医科大学では日本語特別クラスの5年生に講義しました。大学院生あるいは研修医レベルを想定して準備したので学生にとっては多少難しかったようです。しかし昨年パキスタンの学生に英語で、同じ人工股関節の講義をしましたが、いくつかの質問がありました。講義の難易度はほぼ同じであるにもかかわらず、学生の反応が違った要因は学生のレベルではなく中国学生の日本語の理解度にあると思われる。今後日本語の講義では、できるだけ難しい表現を避けるなどの配慮が必要と思いました。内蒙古医学院は、整形外科医、大学院生、看護師が対象でした。講義は日本語で、通訳を北京大学王教授の教室の史先生にお願いしました。内蒙古医学院整形外科の楊教授と呉助教授は、私の教室で3ヵ月間の研修中に何度もこの手術をみていたので、楊教授の解説付きの講義になりましたが、十分に日本の整形外科の進歩を理解して頂けたと思っております。茨城に留学していた看護師さんから日本語で歓迎をうけ、花束まで頂き大変感謝しております。両大学とも、学長、留学生センター長にお会いしましたが、山梨大学医学部との交流の発展を希望されていました。今後は当大学としてもこの交流に一層力をいれる必要があると痛感した次第であります。

## 骨科学教研室 浜田 良机

今年六月末我与人體病理学教室の加藤教授一起访问了中国医科大学和内蒙古医学院，并作为先进医学讲座的一部分，为中国医科大学日语医学班五年级的学生讲授了“小切口人工股关节置换术”的课程。这是按照研究生或住院医水平准备的内容，多少有些难度。但是去年同样的内容给巴基斯坦学生讲课后，学生们却提出一些问题。讲义的难易度相同的情况下，学生们的反应却不一样，其原因我想并不是学生的水平不同，而在于中国学生对日语的理解程度。今后日语讲座应尽可能注意避免使用较难的词汇。在内蒙古医学院，骨科医生，研究生和护士们听了这一讲座。讲课时北京大学王教授教研室的史先生担当了翻译。内蒙古医学院骨科的杨教授和吴副教授在我们教研室进修的三个月期间，曾经多次观摩过这种手术。杨教授在讲课的过程中也作了解说。因此，我想当时大家对日本骨科的先进性应该有充分地了解。曾在茨城留学的护士用日语致了欢迎词，并赠了花篮，我感到十分荣幸。我分别与两所大学的校长，留学生中心负责人见过面，他们都希望能进一步发展山梨大学医学部的交流。我深切地感到我方大学今后也应为两校的交流多尽一份力。



# 中国医科大学交流 10周年



1996年3月、旧山梨医科大学と中国医科大学の間で、学術交流協定を調印し、2006年の4月に10周年を迎えた。

今回、10周年記念事業として、中国医科大学の趙群校長と、潘伯臣国際交流処副処長をお迎えし、今後さらに両大学の交流・協力関係を深め、両大学における研究、教育活動を一層発展させ、また、最新の情報を交換し合う良い機会になりました。

- 今後両大学で期待される事業
- ・ 先端医学講座のさらなる推進
  - ・ 同窓会交流事業
  - ・ 留学生の受入派遣
  - ・ 学術交流10周年記念事業（共同研究等）

1996年3月、前山梨医科大学与中国医科大学签署了学术交流协议，2006年4月迎来了10周年。此次为参加10周年纪念活动，中国医科大学的赵群校长和潘伯臣国际交流处副处长来访。借此良机，就两大学间进一步加深交流合作，促进研究教育活动发展等方面交换了最新情况。

- 今后，两大学将共同推进的事业包括：
- ・ 进一步开展先进医学讲座
  - ・ 同窗会交流
  - ・ 留学生的派遣接收
  - ・ 学术交流10周年纪念活动（合作研究等）

## 病理センター開設



主任臨床検査技師  
弓納持 勉

内蒙古医学院病理センターの開設に伴い、臨床検査技師として講演の機会を与えて頂きました。内蒙古医学院では細胞診検査はほとんど行なわれていないと聞いておりましたので、先ず始めに細胞診検査の概要と代表的な細胞像について解説させて頂き、次に良・悪性の診断のポイントと、応用例として免疫細胞学的手法を用い卵巣癌の予後推定の試みについて講演をさせて頂きました。病理センターの開設に伴い山梨大学との病理業務支援プロジェクトも発足し、今後益々両校の交流が盛んになり教育・研究の発展に少しでも寄与できる様、努力したいと思っています。

臨床主任技師 弓納持 勉

在内蒙古医学院病理中心成立之时，我作为临床检查技师有幸被邀请作一次讲演。因为听说内蒙古医学院还没有开展细胞学诊断检查，我就从细胞学诊断的概论及典型的细胞图像开始。接着讲述了良、恶性诊断的关键点及如何应用免疫细胞学方法推测卵巢癌的预后。随着病理中心的成立，山梨大学相应的病理业务支援计划也同时启动。随着今后两校间交流的日益发展，我愿意为教育研究的发展尽自己的微薄之力。



# Schedule

スケジュール

- ・第4回 山梨大学医学部先端医学講座の実施
- ・実施期間：2006年6月25日～6月28日
- ・実施大学：中国医科大学
- ・派遣教員等：
  - 浜田良機教授（整形外科学講座）
  - 加藤良平教授（人体病理学講座）
  - 山本本や（国際交流担当）
- ・講義演題
- ・浜田良機教授「小皮切による人工股関節置換術」
- ・加藤良平教授「甲状腺および腫瘍における機能形態」
- ・実施期間：2006年6月28日～7月1日
- ・実施大学：内蒙古医学院
- ・派遣教員等：
  - 浜田良機教授（整形外科学講座）
  - 加藤良平教授（人体病理学講座）
  - 王培玉教授（北京大学医学部）
  - 弓納持勉（附属病院病理部主任技師）
  - 山本本や（国際交流担当）
- ・講義演題
- ・浜田良機教授「小皮切による人工股関節置換術」
- ・加藤良平教授「甲状腺および腫瘍における機能形態」
- ・第1回 内蒙古医学院の病理診断業務支援プロジェクトの実施
- ・実施期間：2006年6月28日～7月1日
- ・実施大学：内蒙古医学院
- ・派遣教員等：
  - 加藤良平教授（附属病院病理部長）
  - 弓納持勉（附属病院病理部主任技師）
- ・講義演題
- ・加藤良平教授「日本の病理診断システム」
- ・弓納持勉主任「病理診断業務の実際と組織・細胞診断」
- ・中国医科大学及び内蒙古医学院での協議事項等
  - ① 第5回「先端医学講座」の講義科目及び講義日程等について
  - ② 中国医科大学同窓会との交流事業打合せ及び懇談会
  - ③ 中国医科大学との「学术交流協定」行事等打合せ
  - ④ 内蒙古医学院研修者（臨床医・基礎研究者）の山梨大学医学部での研修等について
  - ⑤ 内蒙古医学院「研修者同窓会」との交流事業打合せ
  - ⑥ 内蒙古医学院での「病理診断業務支援プロジェクト」について
  - ⑦ 内蒙古医学院との「学术交流協定5周年記念」招へい事業打合せ

## 内蒙古医学院開学50周年

### 内蒙古医学院開学50周年に出席して

山梨大学理事（副学長）塚原重雄

6年ぶりに内蒙古医学院を訪れ、開学50年の祝典に出席しました。国を挙げてのお祝いで、約5000名の関係者が集まる、大集会で、会場に入って、人々の熱気に触れ、圧倒されました。それだけ、中国、内蒙古の人々の内蒙古医学院への期待が大きいと言えます。実際、病院が既に新築されていましたし、ホルホトの中心市街から車で30分の郊外、200万平米の土地に建設中の新キャンパスを見学しましたが、その規模の大きさにも驚かされました。幸い、日本留学経験のある内蒙古医学院出身者が学長、教授、厚生省関係の要職を占めているので、これから日本との交流が益々盛んになることが期待されます。日本も、もっともっと高等教育、医療に金をかけるべきではないかと思いました。

### 出席内蒙古医学院建校50周年記念

山梨大学理事（副学長）塚原重雄

时隔6年再次访问内蒙古医学院，出席建校50周年庆典。这是一个有5000人参加的盛大集会。会场的热烈气氛使人深受感染。由此可以看出中国以及内蒙古人对内蒙古医学院的热切期望。事实上，不仅医院大楼刚刚新建完工，我还参观了正在建设新校园。新校园坐落在距呼和浩特市市中心30分钟车程的郊外，占地200万平方米。其建筑规模之大令人吃惊。令人欣慰的是，有日本留学经历的内蒙古医学院毕业生担任着校长、教授、卫生系统官员等要职。将来同日本的交流有希望越来越兴旺。我不由想到日本政府是否也应该在高等教育、医疗领域投入更多的增加资金呢？





# 第5回 山梨大学医学部先端医学講座

# 可能性への夜明に

〈先端医学の大いなる期待〉

中国医科大学  
内蒙古医学院  
山梨大学医学部

## 生理学教授 佐藤 悠



生理学教授 佐藤 悠

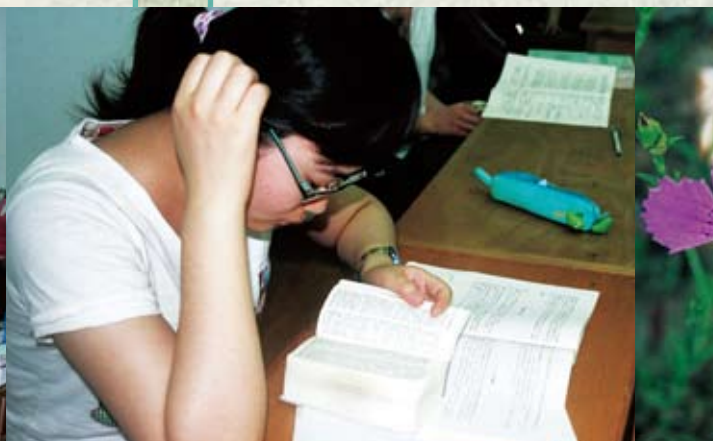
2007年6月に中国を訪問し、中国医科大学国際交流部(才教授、潘助教授、李講師)から連日、熱烈歓迎を受けました。この場を借りて感謝いたします。「音楽と言葉が聞こえるための脳のしくみ」という日本語の生理学講義に学生(写真、医学部日本語クラス70名)はくいいるように聞いていました。秦助教(写真、生理学2の現スタッフで彼らの先輩)の中国語での補足説明もあって、学生から本質的な質問もたくさん受けました。日本の医学生より勉学熱意が高いです。帰路、山本さんの紹介で寄った北京大学の王教授の歓迎にも感謝いたします。この友好の輪を絶やすことなく広げていきましょう。

2007年6月訪問中国期間、连日来受到了中国医大国际交流处(才教授、潘教授和李讲师)的热烈欢迎,借此机会表示感谢。我为日语医学班70名学生做了题为“音乐和语言认知的脑机制”的日语生理学讲座。同学们听得非常认真,其间秦助教用汉语做了补充说明。同学们就讲座内容提出了一些本质性的问题,表现出了比日本学生还高的学习热情。回程中,经山本先生介绍访问了北京大学,受到了王教授的欢迎特此感谢。希望这种友好交流能够长持以久,不断发展。

## 病理部副部長



昨年に引き続き、病理業務支援プロジェクトに参加させて頂きました。今回は、病理診断に免疫組織学的手法をどの様に取り入れ、良悪性の診断や組織型の推定を行なっているか、ケラチン抗体を主に、講演させて頂きました。更に応用例として、カルレチニンおよびWT-1抗体を組み合わせ、悪性中皮腫と他の様々な悪性腫瘍との鑑別法について解説させて頂きました。今回が2回目の参加ということもあり、多くの先生方から様々なご質問を頂き、大変貴重な経験となりました。今後もこのような積極的な交流を重ね、両校が益々発展することが期待されます。



## 弓納持 勉



## 病理部副部长 弓納持 勉

今年，我继续荣幸的参加了病理诊断支援工程。在这次讲座时，我讲了在病理诊断中，怎样通过免疫组织学方法主要利用calretinin抗体来诊断良恶性肿瘤及推断组织分型。在应用实例中，讨论了如何利用calretinin和WT-1的组合来进行恶性中皮瘤与其它的恶性肿瘤的鉴别诊断。讲座中，许多老师提出的各种各样的问题，将成为我今后工作中宝贵的经验。我非常期待今后能够举办更多像这样有意义的学术交流，并希望两校今后都有日新月异的发展。

## 人体病理学教授 加藤 良平



## 人体病理学教授 加藤 良平

平成19年7月5日から7月8日まで、弓納持勉病理部副部长、鈕東峰大学院生、山本本や事務官とともに、内蒙古自治区呼和浩特市の内蒙古医学院を訪れた。内蒙古医学院では、先端医学講座および病理診断支援プロジェクトとして、「病理診断における分子生物学的手法の応用」という内容の講義を行った。その後、病理診断業務の実際について、熱心な意見交換が行われた。講義後の大学執行部との会議では、山梨大学の先端医学講座と病理診断支援プロジェクトの継続が強く要望された。最後に今回も本プロジェクトのためにご協力いただいた北京大学の王培玉教授に感謝します。

从平成19年7月5日到7月8日，病理部副部长弓納持勉，大学院生鈕東峰，事务官山本本や一行4人，访问了内蒙古自治区呼和浩特市の内蒙古医学院，在内蒙古医学院期间，通过先端医学讲座及病理诊断支援工程，我讲了关于病理诊断中分子生物学的应用法，之后，在病理诊断常规的实际操作的讨论中，大家热情洋溢地交换了意见。讲座之后，在大学执行部的会议中，大家都希望山梨大学的先端医学讲座和病理诊断支援工程能继续举办和发展。最后，对本工程给予大力支持和帮助的北京大学教授王培玉，表示衷心的感谢。





# Schedule

スケジュール

- ・第5回山梨大学医学部先端医学講座の実施
- ・実施期間：2007年6月19日～6月22日
- ・実施大学：中国医科大学
- ・派遣教員等：佐藤悠教授（生理学講座第2教室）  
秦嶺助手（生理学講座第2教室）  
山本本や（国際交流担当）
- ・講義演題
- ・佐藤悠教授 「言葉と音楽が聞こえるための脳のしくみ」  
秦嶺助手 講義通訳
- ・実施期間：2007年7月5日～7月8日
- ・実施大学：内蒙古医学院
- ・派遣教員等：加藤良平教授（人体病理学講座）  
弓納持勉副部長（病理部副部長）  
王培玉教授（北京大学医学部）  
山本本や（国際交流担当）
- ・講義演題
- ・加藤良平教授 「病理診断における分子生物学的手法」
- ・第2回 内蒙古医学院の病理診断業務支援プロジェクトの実施
- ・実施期間：2007年7月5日～7月7日
- ・実施大学：内蒙古医学院
- ・派遣教員等：加藤良平教授（人体病理学講座）  
弓納持勉副部長（附属病院病理部副病理部長）
- ・講義演題
- ・弓納持勉副部長 「病理診断における免疫染色」
- ・中国医科大学及び内蒙古医学院での協議事項等
  - ①第6回「先端医学講座」の講義科目及び講義日程等について
  - ②中国医科大学との学術交流10周年事業等打合せ
  - ③内蒙古医学院研修者（臨床医・基礎研究者）の山梨大学医学部での研修等について
  - ④内蒙古医学院同窓会との交流事業打合せと懇談会
  - ⑤内蒙古医学院との「先端医学講座」について意見交換



## 内蒙古医学院との 学術交流5周年記念

2002年7月2日、山梨医科大学と内蒙古医学院の間で、学術交流協定を締結し、2007年7月に5周年をむかえました。

両大学は、学術交流協定に基づき、臨床医師の研修受入、留学生及び研究者の受入、日本留学会の設立、漢方薬研修、病理診断業務支援プロジェクト、先端医学講座の実施など多くの交流事業を進めてきました。

今年5周年を迎え、内蒙古医学院の畢院長はじめ9名の先生方をお迎えすることが出来ました。また、7月24日には、貫井学長と畢院長が学術交流協定の調印式を執り行い、両大学の新たな前進を誓いました。

### 紀念内蒙古医学院学術交流5周年

2007年7月2日は山梨医科大学と内蒙古医学院签订学術交流協定五周年。5年来、两所大学按照学術交流協定、派遣了臨床醫師、留學生、研究員、設立了日本留學會、開展中醫藥學研究、實施病理診斷支援工程、舉辦先端醫學講座等多方面的合作交流、通過雙方共同努力、圓滿完成了協定的各項工作。

五周年之際、我們榮幸的迎來了內蒙古醫學院畢院長一行9人、7月24日、貫井學長和畢院長舉行了學術交流協定簽字儀式、我們期望兩校在各方面的交流中會有近一步的發展。



# 医学創造への道程

第6回 山梨大学医学部先端医学講座

先端医学が導く未来

中国医科大学  
内蒙古医学院  
山梨大学医学部

# 第6回 山梨大学医学部先端医学講座

## 分子病理学 範 江林



2008年6月に瀋陽にある中国医科大学を訪問し、医学部日本語クラスの学生に「生活習慣病とその病態機序」というテーマで講義を行った。私にとって中国で日本語で講義するのは、これが初めてのことで、少々緊張したが、学生の熱心さに圧倒され、2時間の講義はあっという間に終了した印象を受けた。驚いたことに、日本語クラスには二人の日本人学生も在籍していた。彼らは、中国医科大学で医者を目指しているようだ。中国医科大学は実は私の母校でもあり、久しぶりの訪問で、母校の日進月歩の変貌には驚くばかりであった。今後共、両校の友好交流を深めるために貢献していきたい。

## 分子病理学 範 江林

2008年6月我访问了沈阳的中国医科大学，并给医学日语班的学生做了题目为「生活习惯病及其病态机理」的讲座。对于我来说这也是第一次，虽然有点紧张，但是很快就被学生的学习热情所压倒，2小时的讲座仿佛瞬间就结束了。让我吃惊的是，在日语班里竟然有两位日本学生，他们在中国医科大学以当医生为目标而努力着。其实，中国医科大学也是我的母校，很长时间没有回来了，母校日新月异的变化真是令我震惊。今后，我希望能为两校友好交流的进一步加深，贡献自己一份力量。



## 分子情報伝達学 北村 正敬



2008年6月23日から26日まで内蒙古医学院を訪問し、第6回山梨大学医学部先端医学講座として「遺伝子工学バイオセンサー」に関する講義を行いました。初めての内蒙古への訪問でしたが、日本とは異なる気候風土、また現地の方々の温かな歓迎が深く心に残りました。呼和浩特市郊外に移転した新しい大学キャンパスも訪れましたが、その広さ、建造物のスケールの大きさ、また教員の熱意に圧倒される思いでした。今後益々、本学と内蒙古医学院との絆と友好が深まり、また共同研究や人的交流も含め、実のある連携が発展してゆくことを願ってやみません。

## 分子情報伝達学 北村正敬

2008年6月23日至26日，作为第6回山梨大学医学部先进医学讲座的成员到内蒙古医学院访问并作了有关《基因工学生物感知器》的演讲。第一次到内蒙古访问，当地与日本不一样的气候和风俗人情，人们对我们的热诚的欢迎给我留下了很深的印象。参观了呼和浩特郊外的新校区，那里土地的宽广、建筑物的规模之大以及教员们的热情深深地折服了我们。今后，我殷切地希望本校和内蒙古医学院的交流和友好能够更深地发展，包括共同研究及人与人的交流在内的富有成果的合作能够取得更大的进展。





热烈欢迎日本国山梨大学代表团访问我院



## 今後の 先端医学講座について

留学生委員会委員長 浜田 良機

現在、当大学では、大学院へ進学する医師が減少、十分な研究のための人材の確保が困難となりつつあります。この状況を打開する手段の一つとして中国をはじめとして、アジアの各国から、山梨大学での学問を強く希望する、優れたかつ誠実で、研究室でのコミュニケーションに問題がないと思われる人材を、より積極的に受け入れることが考えられます。内蒙古医学院での先端医学講座開設を継続、発展させることは、当大学での医学研究の発展の観点から、今後はより重要な事業になるものと考えております。各指導教官の先端医学講座に対するご協力をお願い致します。

留学生委員会委員長 浜田良機

目前、由于进入山梨大学攻读研究生的医师逐渐减少，出现了人才匮乏的现象，所以很难保证研究工作的顺利进行。这种情况急待解决，其方法之一就是：从以中国为代表的亚洲各国招收一些对学术研究有极大兴趣的，优秀的，诚实的，没有交流障碍的人才，来我校继续深造，进行研究工作。从我校的长远的研究发展角度来看，内蒙古医学院进行先端医学讲座的继续开设以及今后的进一步发展，将成为我们今后的一项重要工作。我忠心期望各位导师能同心协力，为先端医学讲座的进一步发展做出更大的努力。





# Schedule

スケジュール

・第6回 山梨大学医学部先端医学講座の実施

・実施期間:

2008年6月19日～6月20日

・実施大学: 中国医科大学

・派遣教員等:

範 江林教授(分子病理学講座)

山本本や(国際交流担当)

・講義演題

・範 江林教授「生活習慣病とその発症機序」

・実施期間:

2008年6月23日～6月25日

・実施大学: 内蒙古医学院

・派遣教員等:

浜田良機教授(整形外科学講座)

北村正敬教授(分子情報伝達学講座)

高田谷久美子教授(留学センター)

山崎洋子教授(看護学科)

山本本や(国際交流担当)

・講義演題

・北村正敬教授「遺伝子工学的バイオセンサーを用いた生体現象のモニタリング」

・内蒙古医学院との協議について  
担当者:

(浜田良機教授, 高田谷久美子教授, 山崎洋子教授, 山本本や国際交流担当)

(協議事項等)

①第7回 先端医学講座の実施について

②同窓会との交流事業について

③内蒙古医学院研修者の受入について

④病理診断支援プロジェクトについて

⑤看護学科との「学术交流」について

## 看護学科

高田谷 久美子 山崎洋子

平成20年6月、はじめて内蒙古医学院との学术交流に同行しました。看護学科ではこれまでタイ国との交流を深めてきましたが、隣国である中国の大学とは、初めての事です。私たちが暖かく迎え入れてくれた諸先生のお人柄に触れ、気候、風土の異なる内陸部である内蒙古医学院の壮大なキャンパスや大学病院、医学・看護学教育の場の実際を見学し、今後の学術、教育、実践の場での交流を模索するための道が開かれたと思います。

看護とかかわりの深い出産や育児、高齢者の介護や看取りなど異なる文化の中ではぐくまれた人々の生活と医療・看護についてお互いに伝えあい、将来的に看護学科の特徴を生かした学术交流ができればと思います。

2008年6月、我们首次前往内蒙古医学院进行了学术交流。护理学科一直以来都与泰国的大学之间保持着此类深入的学术交流关系，但和近邻的中国的大学，这还是第一次。通过与各位热情迎接我们的老师的接触和了解，在具有独特内陆气候和乡土人情的宏伟校园中的参观，以及对于医学、护理学教学的实地观摩，对今后摸索学术、教育、实践等多方面的交流开辟了道路。

通过与护理学息息相关的生产、育儿以及老年人的护理等异文化当中孕育出的人们的生活以及医疗、护理领域中的相互沟通，今后两校之间必将会出现更深入的学术交流，推动护理学科发挥出更多的学科特色。



講義の内容は大体分かりました。

もっと多い機会がほしい。

純音、雑音、楽音というものがおもしろそうですが、大脳では聴覚に関わる分野は興奮性反応野と抑制性反応野に分れておもしろそうです。

講義内容が面白いし、先生もやさしいに感じました。でも、あんな日本語が下手な先生は、まだ大体わかりません。あと、聴覚だけね。これから、そのほかの講義が多くなるといいです。

いいと思います。

でも単語がたくさんわかりません。もし予習できれば理解に促進すると思います。

教授の講座は私に対しては とても難しい。実は私が多量の内容が分りませんが、~~でも~~ 雑音、私には日本語が下手です。ところが、教授の言葉がやさしくて、教授が親せつな感じとです。

佐藤先生の講義は とてもおもしろいです。私はいろいろ知識をいただいています。ありがとうございます。

とても素晴らしい講座です。

いろいろ勉強しました。

その進んでいる技術に

とても感動しています。

またそのような講座を聞きたいと思います。

声帯は綺麗なものです。どうして、雑音と楽音はそんな差があるのか、人の声はいいから、有毛細胞の構造構成がどうかは可能性があまりありません。この可能性は音の敏感度が違う原因だろう。

私は聴覚を専攻しない、中国語では「五音が足りない」、私の趣味は聴覚を聞くことだ。一度も生体後は、脳の中は聴覚の回路がいつも歩り回ります。たぶん人は私の有毛細胞が活躍してる。

橋本先生は日本へ留学したい。

It is my pleasure to hear professor's lecture. It's really a good one. Thank you very much!

# Questionnaire

第5回中国医科大及び内蒙古医学院における「山梨大学医学部先端医学講座(生理学)」の講義におけるアンケート (2007.6.19~21)

先生は私たちに様々な角度から知識を教えてくれた。ありがとうございます。

讲得不错, 很有热情, 而且富有幽默感。

この講座はいいです。いろいろ事例が示されたから、私にはよくわかりました。しかし、私たちの理解はよくないから、少しは説明がほしいです。講義はおもしろいと感じています。

希望以后互动的机会适当增加。

I'm glad to hear such lecture because we can acquire many new message of the medical development from abroad. Thank you!

私は初めて山梨大学医学部先端医学講座を聞いて、びっくりしました。

日本の進歩した文化や技術を身に付けようだけでなく、将来は日本へ行くことに決心しました。

では、生理学の勉強は とても うれしいと思います。私は、将来日本へ留学するつもりはありません。直接に、日本へ行つて、日本の医者合格試験を通して、日本の医者になりたい!

久びさに聞く日本の先生の授業とても親近感がありました。毎月も分りやすくとても楽しく聞きました。自分は留学生として中国医科大に入ってから、中国語が上手ではなく、中国の先生の授業だと、日本語で聞いても、聞き取れませんでした。久びさに日本語の授業で、頭の中のモヤモヤが、あつて、消えました。気持ちよくなりました。

私は ています!

どうもありがとうございました。

# Questionnaire

第6回中国医科大及び内蒙古医学院における「山梨大学医学部先端医学講座(分子病理学)」の講義におけるアンケート (2008.6.19~20)

您的讲座内容很精采,但由于专业不同,对某些实验技术和研究背景不是很明白,希望能够在今后的讲座中能增加这方面内容,更希望今后中日学生之间能有更多交流,谢谢!

首先,非常感谢教授给我们做如此生动的讲座,内容很精采,尤其是您那中大量的分子机制方面的资料,很全面,很前沿,使我们能够接触更多新的知识,增长新的见识!

首先,非常感谢教授给我们做如此生动的讲座,内容很精采,尤其是您那中大量的分子机制方面的资料,很全面,很前沿,使我们能够接触更多新的知识,增长新的见识!

其次,希望以后的举办一些讲座,使我们能够更加及时地接触到新的知识。

其次,希望以后的举办一些讲座,使我们能够更加及时地接触到新的知识。

最后,希望中日学生之间交流更上一层楼!

最后,希望中日学生之间交流更上一层楼!

谢谢!

谢谢!

I'm glad to hear your lecture and I have learned a lot of knowledge about gene and other things. Your lecture is very wonderful and I hope you can come to our country again and we can hear more, have more chance to study each other. Thank you very much.

I'm glad to hear your lecture and I have learned a lot of knowledge about gene and other things. Your lecture is very wonderful and I hope you can come to our country again and we can hear more, have more chance to study each other. Thank you very much.

您的讲座内容很精采,但由于专业不同,对某些实验技术和研究背景不是很明白,希望能够在今后的讲座中能增加这方面内容,更希望今后中日学生之间能有更多交流,谢谢!

講義の内容はすばらしいです。奥の理論を簡単な言葉で表して、体系による方法で説明しています。

中国も、日本も長い歴史を持っている国ですが、今後はもっと交流して、両国の人民は深く親しく理解できて、必ずもっと美しい未来を迎えることができると信じています。

いい勉強になりました。本当にありがとうございました。

In very glad to hear the course of lectures by Professor Masanori Kitamura of university of Yamanashi. I learned much knowledge though I am not the major of Molecular Signaling. I finished out the four seasons beautiful scene of Japan from the lecture. I hope that I will see you again in our school. Thank you for taking us a good afternoon!

I'm very glad to hear the course of lectures by Professor Masanori Kitamura of university of Yamanashi. I learned much knowledge though I am not the major of Molecular Signaling. I finished out the four seasons beautiful scene of Japan from the lecture. I hope that I will see you again in our school. Thank you for taking us a good afternoon!

讲义内容不象我想象的深奥,用科学简单的语言与来自异国他乡的问题,如果以后能成为本校的一名病理老师,将对我校病理水平有更大的促进。welcome back.

山梨大学 医学部 先端医学講座報告書  
2003~2008

2009年3月発行

発行者 山梨大学医学部留学生委員会  
〒409-3898 中央市下河東1110番地  
TEL 055-273-1111

印刷 武田相互印刷株式会社



